

農業総合センター果樹研究所（以下、果樹研究所）におけるモモ、ナシ、リンゴなど主要果樹は、開花～満開が平年より遅れたことから、果実の生長も遅れています。今後は、仕上げ摘果や新梢管理が中心となりますが、果実や新梢の生長に注意して計画的に実施してください。

1 気象概況（5月4～6半旬：果樹研究所）

平均気温は、4半旬が17.9 で平年より1.6 高く、5半旬が18.7 で平年より1.8 高く、6半旬が14.1 で平年より3.9 低く経過しました。この期間の降水量は175.8mmで平年の42%でした。

2 土壌水分（5月31日現在：果樹研究所）

土壌水分（pF値：無かん水・草生栽培リンゴほ場）は、深さ20cmで2.0、深さ40cmで1.7、深さ60cmで1.7となっており、ほぼ適湿条件の範囲です。

3 生育概況（果樹研究所）

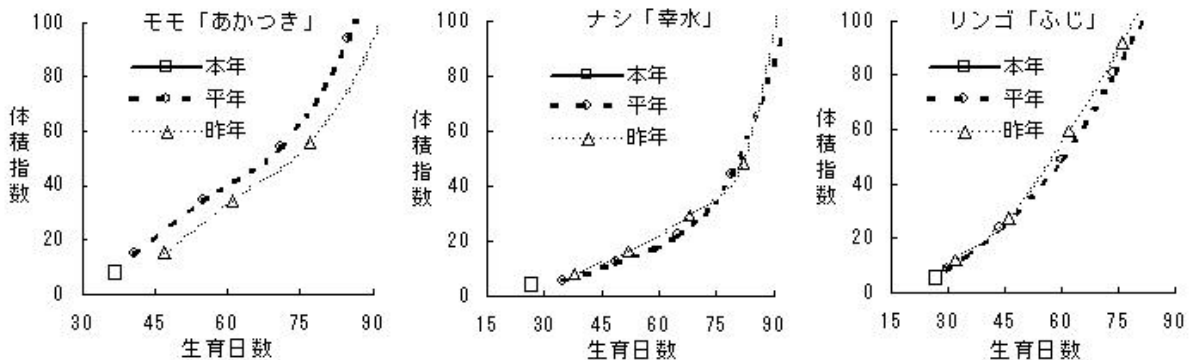


図1 主要品種の果実肥大（6月1日現在）

(1) モモ

ア 果実肥大（6月1日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が28.8mmで平年比87%、側径が20.5mmで平年比78%、「ゆうぞら」は縦径が28.7mmで平年比84%、側径が19.6mmで平年比78%で、満開が平年より4日遅れたことから果実の肥大も遅れています。

イ 新梢生長（満開後30日現在）

「あかつき」の新梢生長は、新梢長が平年比93%と短く、展葉数は平年比105%とやや多く、葉色は平年比96%とやや淡い状況です。

ウ 双胚果と核障害の発生（満開後30日現在）

双胚果発生率は、「あかつき」が3.6%、「ゆうぞら」が14.2%と平年より少ない状況です。また、「あかつき」の核障害発生は、核頂部の亀裂が40.8%程度認められますが、平年並みの状況となっています。

オ 発育予測（6月1日現在）

「あかつき」の発育予測によると、本年の硬核期開始は6月15日頃で平年より3日程度遅い見込みです。なお、収穫期は平年より4日程度遅れる見込みです。

(2) ナ シ

ア 果実肥大（6月1日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が17.9mmで平年比87%、横径が19.8mmで平年比87%、「豊水」は縦径が18.8mmで平年比84%、横径が19.7mmで平年比87%で、満開が平年より8日遅れたことから果実の肥大も遅れています。

イ 新梢生長（満開後20日現在）

「幸水」の新梢生長は、新梢長（予備枝）が平年比144%と長く、葉枚数が平年比124%と多い状況です。

(3) リンゴ

ア 果実肥大（6月1日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が24.9mmで平年比86%、横径が24.8mmで平年比85%、「ふじ」は縦径が23.3mmで平年比87%、横径が20.2mmで平年比83%で、満開が平年より3～5日遅れたことから果実の肥大も遅れています。

イ 新梢生長（満開後20日現在）

「ふじ」の新梢生長は、新梢長が平年比82%と短く、新梢停止も早い状況です。

(4) ブドウ

ア 新梢生長（発芽後40日現在）

「巨峰」の新梢生長は、過去4年（平成18～21年）と比較すると新梢長が69%と短く、展葉数が92%と少ない状況です。

イ 発育予測（6月1日現在）

今後の気温が平年並みに経過した場合、「巨峰」の開花始めは6月12日頃、満開は6月14日頃で平年より5～6日遅いと予測されます。

4 栽培管理上の留意点

(1) モ モ

ア 仕上げ摘果

本年の硬核期開始は6月15日頃（果樹研究所）と予想されるので、この頃までを目安に仕上げ摘果を実施しましょう。摘果の程度は最終着果量の1～2割増とし、樹勢や双胚果、核障害の発生を見ながら加減します。

本年の「あかつき」は、双胚果の発生が平年より少なく、核障害が平年並みの発生となっていますが、園地によっても発生が異なるので、園内の状況を確認した上で摘果を実施しましょう。双胚果や核障害の発生が多い場合は、仕上げ摘果で着果量をやや多めとし、障害が明らかになる硬核期終了後に修正摘果で適正着果量とします。なお、図2に示したように核頂部に断裂などの重度の障害がある果実は、満開後45日頃になると果頂部の変形が目立ってきますので、果形に注意して仕上げ摘果を実施しましょう。

また、本年は果実に花カス（ガク片等の残り）の付着が目立ちますが、灰色かび病などの病害発生につながりやすいので、摘果時に丁寧に取り除きましょう。

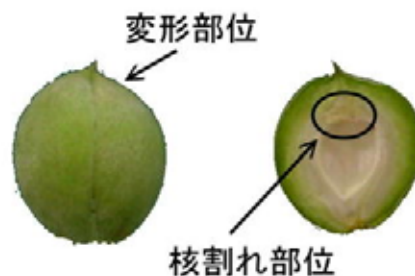


図2 核頂部の障害と果頂部の変形

イ 新梢管理

5月下旬～6月中旬は新梢の生育が盛んな時期であり、樹勢の強い樹や若木等では樹冠が混雑しやすくなります。特に、若木などは徒長枝の発生により樹形が乱れやすく、徒長枝を放置した場合は、冬季のせん定量が多くなるため樹の拡大が遅れるばかりか、切り口からの枯れ込み等により樹の寿命が短くなります。このため、樹冠内部や主枝、亜主枝の基部、側枝の基部など徒長しやすい新梢は早めに摘心や夏季せん定を実施し、健全な樹体管理に心がけましょう。なお、樹勢の弱い樹については葉面積の確保を優先し、夏季せん定は行わないか、最小限とします。

ウ 樹勢回復対策

新梢伸長が劣り、葉色が淡いなどの樹勢低下が認められる園では、早めの摘果に心がけるとともに着果数を制限し、新梢の生育を促しましょう。また、樹冠の上部に空枝を積極的に配置し、葉面積の確保により樹勢の回復を図りましょう。

(2) ナシ

ア 仕上げ摘果

予備摘果が終了しだい仕上げ摘果作業に入り、満開後50日頃までに実施しましょう。仕上げ摘果では、最終着果量の2～3割増とし、樹勢を考慮しながら着果量を調節します。また、本年は果実の大きさにバラツキが認められるので、果実の大きさや形質に注意して摘果を実施しましょう。

イ 新梢管理

満開後45～60日頃を目安に新梢管理を実施しましょう。新梢管理は、側枝基部に発生した新梢を中心に、主枝・亜主枝の背面から発生した新梢などをせん除します。側枝の更新候補となる新梢の発生が少ない場合は、側枝基部の側面から発生した新梢を1本残し、利用します。また、予備枝は先端新梢の生育を促すため、6月上旬までに発育良好な新梢を残して1本に整理します。

(3) リンゴ

予備摘果が終了しだい仕上げ摘果に入り、満開後60日頃までに実施しましょう。仕上げ摘果では、小玉果や変形果、障害果、病害虫果、果台の長い果そうの果実、果そう葉の少ない果そうの果実、長果枝の果実などを摘果し、形質の良い果実を残します。結実の少ない園地では着果数の確保を優先し、不良果そうを中心に最小限度の摘果を行います。果形の揃いが悪い園地では、仕上げ摘果でやや多めに着果させ、修正摘果で調整しましょう。

(4) ブドウ

開花～満開は平年より5～6日遅れる見込みですが、摘穂、花穂整形は適期を逃さないよう計画的に実施しましょう。摘穂は樹勢が落ち着いた樹ではできるだけ早めに行いますが、極端に強い新梢は生育抑制を図るため開花結実後の生育を見ながら行います。花穂整形は、花が1～2輪咲き始めた頃が適期で、遅くとも満開期までには終了します。栽培面積、労力等の条件で整形作業に長時間を要する場合は、樹勢が弱い樹を中心に開花前5日頃から実施します。

(5) オウトウ

「佐藤錦」では着色開始期に入り、間もなく収穫期を迎えます。雨よけの被覆、反射シートの設置、新梢管理や摘葉など、収穫前の管理を徹底してください。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病害

ア リンゴ褐斑病、斑点落葉病、輪紋病、腐らん病

6月上旬は褐斑病菌(子のう孢子)の飛散盛期となり、重要防除時期にあたります。また、斑点落葉病、輪紋病も感染しやすい時期となるので、防除を徹底しましょう。また、近年腐らん病の発生が増加傾向にあるため、防除を徹底しましょう。

イ モモせん孔細菌病、灰星病

せん孔細菌病の発生量は中通り北部で「やや多」(病害虫防除所)であり、本病の発生に注意が必要です。第一次伝染源の春型枝病斑や第二次伝染源の発病葉および果実を取り除くとともに、薬剤防除を徹底しましょう。また、7月上旬頃から収穫となる早生品種では、6月中旬以降は灰星病の防除を徹底してください。

ウ ナシ黒星病

果樹研究所の「幸水」(無防除樹:6月1日現在)における新梢発病葉率は1.8%と平年(1.7%)並となっていますが、県内の発生量は「やや多」(病害虫防除所)であり、今後も引き続き注意が必要な状況です。罹病部位は見つけしだい取り除くなど耕種的防除を実施するとともに、薬剤防除を徹底しましょう。

(2) 虫害

ア ハマキムシ類

リンゴモンハマキ越冬世代成虫の発生盛期は5月5半旬頃で、第1世代の防除適期は6月2半旬頃と推測されます。誘殺盛期から10日後頃が防除適期にあたるので、この時期の防除を徹底しましょう。

イ モモハモグリガ

第1世代成虫の発生盛期は6月2半旬頃で、第2世代の防除適期は6月3半旬頃と推測されるので、この時期の防除を徹底しましょう。

ウ ナシヒメシンクイ

第1世代成虫の発生盛期は6月5半旬~7月1半旬頃で、第2世代の防除適期は6月6半旬~7月3半旬頃と推測されるので、この時期の防除を徹底しましょう。

エ カメムシ類

山間及び山沿いの果樹園では、カメムシ類の飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょう。

表1 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定

今後の気温 予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期
2 高い	6月7日	6月12日	6月21日	6月30日
平年並み	6月9日	6月14日	6月26日	7月5日
2 低い	6月10日	6月17日	7月2日	7月13日

注) 前世代の成虫発生盛期を起算日(モモハモグリガが5月2日、ナシヒメシンクイが5月4日)として、その後の気温を基に平成22年5月31日現在で推定した。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。